10までの数の合成・分解を活動を通して考えることの指導 ～ゲーム性のある活動を使った事例～			
学部・教科	小学部・算数科	事例コード	2414
学習グループの実態	<ul style="list-style-type: none"> 小学部3・4学年（3名） 身の回りにあるものを10までの範囲で指差ししながら正確に数えたり、書き表したりすることができる。また、二つの数の大小や順序についても理解している 		
単元(題材)名	「いくつといくつ」		
学習指導要領の内容	算数科／小学部2段階 A数と計算 ア 10までの数の数え方や表し方，構成に関わる数学的活動 (ア)㊦ (イ)㊦		
単元(題材)の目標	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
	一つの数を二つの数に分けたり、二つの数を一つの数にまとめたりして表すことができる。 【Aア(ア)㊦】	数詞と数字、ものとの関係に着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、それらを学習や生活で興味をもって生かすことができる。 【Aア(イ)㊦】	数量に関心をもち、算数で学んだことの楽しさやよさを感じながら興味をもって学ぼうとする。 【小学部2段階A目標ウ】
単元(題材)の計画	総時数8時間 1 ボールを使ったゲームを行い、一つの数を二つに分ける。(4時間) 2 サイコロを二つ使ってすごろくをする。(4時間)		
指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム性のある活動を取り入れることで、児童が楽しみながら主体的に取り組めるようにした。 2つの箱に向かってボールを転がし、1つの箱に入ったボールの数から、中の見えないもう1つの箱の中に入ったボールの数を当てる学習や、友達とペアになって箱にボールを投げ入れ、自分が入れたボールを友達が入れたボールを合わせていくつになるか考える学習を行った。 → 1つの数を2つに分けることや、2つの数を1つにまとめることを理解して、指を使って数えたり、ブロックなどの半具体物を使って数えたりすることができた。小さい数であれば指や半具体物を使わなくても見ただけで頭の中で考えて数を答えることができるようになった。 サイコロを2つ使い、出た目の数を合わせていくつになるか考える学習や、友達とペアになって1つずつサイコロを振り、2つの目の数を合わせていくつになるか考える学習を行った。 → すごろくの活動の中で、既習事項である数の大小を生かして、大きな数が出たときには、友達と一緒に喜ぶ姿が見られた。 身に付けた知識及び技能を算数の学習の中で生かそうとする場面が見られたが、他教科や生活の中で生かす場面を設定する機会を充実させることが課題である。 		